

5年1組

 今年の紙作りへの挑戦
 ～ヨシやコウゾの可能性～


私たちの紙作りの振り返りと可能性

5月。4年生の時に取り組んできた「私たちの紙作り」を振り返りました。当時、折り紙の消費問題から紙作りを提案したSさんは「今は紙作りを始めたときと目的が変わってきている。」、Mさんは「自分たちが1年間取り組んできたからこそ、これまでの歩みを大事にして続けていきたい。」と語っていきます。さらには、Hさんは「コウゾを使った和紙への挑戦」、Sさんは「環境問題を視点にしたリサイクルの紙作り」、Hさんは「新しい紙作りへのチャレンジ」、Yさんは「育てたもので紙作り」などと、紙作りへの可能性を語っていきます。「普通に生活していたら紙を作ることもない」。そんなことも話題になりながら、紙作りの魅力や面白さを味わった私たちだからこそ、今年も紙作りに取り組んでいくことが決まりました。

ヨシ刈りやヨシ紙作りの事実との出会い

7月。信州大学の水谷先生をお招きして「志賀高原ユネスコエコパーク」についての学習がありました。先生のお話の中で、「ヨシ刈り」という言葉が出てきました。志賀高原の湿地帯を保護するために行われる「ヨシ刈り」。刈った「ヨシ」もリサイクルをするという観点から「ヨシ」を「パルプ」にしているということを知った瞬間、子どもたちが「え!?!」という表情を浮かべます。水谷先生のお話を教室で振り返ったときには、「ヨシのパルプがある」ということがすぐに話題の中心になりました。その中でZさんが「クラスの畑の奥にヨシみたいなものがあった」と語ると、さっそく見に行くことになりました。植物が成長途中ということもあり、それが「ヨシ」なのかの判断は難しかったのですが、「ヨシの可能性のあるもの」として紙作りの可能性を残すものとなりました。Zさんは教室に戻ってから自分のChromebookでヨシの生態について調べていました。



コウゾとの出会い

5学年の志賀高原学習。志賀高原のヨシ紙作りに関わりのあった内山手漉き和紙体験の家の方に、今現在は「ヨシパルプ」が入手できないということで、「コウゾ」を使った「和紙作り」を教えてくださいました。クラスとしては初めて「コウゾ」を使った和紙作りを味わいました。講師の先生に「パルプを漉き枠で縦、横3回ほどゆらす」ことなどを教わりながら紙漉きをする子どもたち。和紙を漉き終えてからも、コウゾが気に入り、コウゾのパルプを触ってみます。その感触が心地よく「羊の毛みただよ」などとつぶやきが聞こえてきます。その日は和紙が乾燥しきらなかったので、後日出来上がった和紙を受け取ると、「自分たちの紙と全然違う」と手触りを確認したり、太陽にかざして光を通してみたりして「コウゾで作った和紙」の風合いを味わっていました。

夏休み明けからは出会った「ヨシ」や「コウゾ」といった材を軸にしながら、子どもたちと紙や紙作りの魅力に迫っていきたいと思います。

